

所 信 表 明

誇りを持って「帰ってこいよと言えるまち」の
実現に向けて



丹波市長 林 時彦

令和2年12月14日

1 はじめに

本日、第 113 回丹波市議会定例会におきまして、今後、4 年間の市政運営に対する所信を表明する機会を与えられましたことに、厚く感謝を申し上げます。

私、林時彦は、このたびの市長選挙におきまして、市民の皆様から力強いご支援、ご支持をいただき、丹波市第 3 代市長として市政を担うこととなりました。この場に立ちますと、多くの市民の皆様から寄せられました期待の大きさと責任の重さに、改めて、身の引き締まる思いであります。

少子高齢化、人口減少が加速する中、そして新型コロナウイルス感染症の影響拡大を前にして、国においては、デジタル化やグリーン成長など大きな変革に取り組まれようとしています。同じく、この丹波市においても、それらの影響によって自治体経営のあり方を変えていかなければならない大変重要な時期ではありますが、大好きな丹波市への誇りを胸に、労を惜しまず、全身全霊で市政の舵取りに臨む覚悟でございます。

2 市政運営の基本的方向

(1) 基本姿勢

では、最初に、市長としての基本姿勢を述べさせていただきます。

私が政治の道を志したきっかけは、医師不足の中で丹波地域の医療を守り支えようとされる「県立柏原病院の小児科を守る会」の講演に心揺さぶられ、涙を流しながら感動し、「自分にできることはないか」と思い始めたことにあります。

そして、議員として市政に関わる中で、「今の丹波市政は、機能不全に陥っているのではないか。開かれた市役所、そして、元気で明るい丹波市を創るために、みんなの声を聞くリーダーを目指したい」との思いに至り、立候補いたしました。

丹波市役所は、1,100名以上の職員と全会計で約600億円を動かす、丹波市で一番大きな、市民へのサービスのためにある会社であります。この会社が元気にならないと、行政サービスは良くなり、丹波市は元気になるしません。

会社を経営してきた民間経験と、議員として活動してきた政治経験の両方を活かしながら、市民や職員との積極的な対話を進め、市民に寄り添った市政運営を行ってまいります。

(2) 目指すまちづくり

次に、私が4年の任期を通じて目指したいのは、「子どもたちに帰ってこいよと言えるまちづくり」であります。これは、選挙を通じて訴えた言葉でありまして、『イクメン』がまだ珍しかった時代から、率先して家事や子育てをしてきた私自身の経験を活かして、地域をあげて子育てを応援する環境を作るとともに、将来に負担を残さない健全な自治体経営をすることで、人々が集まってくる魅力的な丹波市を創っていきたいと考えます。

市民が誇りを持って「帰ってこいよ」と言えるまち、そして、市外から見たときに、丹波市に「帰ってきたい」「住みたい」と思えるまちを、市議会や市民のみなさまとともに創り上げていく、そんなまちづくりを目指してまいります。

3 市政運営の柱

(1) 市民に寄り添った行政サービス

市民が誇りを持って「帰ってこいよ」と言えるためには、第1に、市民自身の生活が安全安心で、暮らしやすい丹波市であることが大切であると考えます。

そのため、例えば、ごみの減量化や、丹波市の生物多様性、美しい

自然環境の保全に、市民総がかりで取り組むことと合わせて、ごみ袋の値下げができないか。また、医療・福祉サービスを利用しながら安心して住み慣れた地域で住み続けることができるよう、新しいデジタル技術の活用や、もっと利用しやすい快適な公共交通体系の構築に取り組めないか、など、丹波市が誕生してからの16年間で作り上げられてきた今までの制度を市民目線で再点検し、持続可能な財政運営に十分配慮しながら、官民連携や市民活動を取り入れ、4年間をかけて行政サービスの向上を進めてまいります。

(2) 選ばれるまち丹波市を目指して

次に、丹波市に「帰ってきたい」「住みたい」と思えるような施策として推し進めていこうと考えるのが、子育て支援・移住支援・雇用創出です。

この3つの分野は、ともすれば関連性なく取り組まれがちですが、いずれも、子育て世代に「丹波市は魅力的だ」と感じてもらうための政策として非常に重要であります。

少子化が加速度的に進む丹波市にとって、子育て世代は政策ターゲットであり、子育て世代、そして現役世代のニーズに適うという点で、子育て支援・移住支援・雇用創出を一体的にとらえ、部局を越えて横

断的に取り組んでいくべきであると考えます。

確かに、暮らす場所を決めるということは人生の一大事ですが、その決断のときに丹波市での暮らしを選んでもらえるような取組、ひいては、子育て世代をはじめとして、だれもが暮らしやすい環境づくりにつながるよう取り組んでまいります。

(3) おかえり・ただいまで心かようまち

3つ目は、「帰ってこいよ」「帰ってきたい」と声かけ合える人づくりです。これは、25 地区それぞれの魅力を活かした地域づくりと、次世代を育む保育・教育の推進によってなされるものであらうと考えます。

近年、60 代や 70 代でも元気に働かれる方が多くなったことや、人口減少によって、地域コミュニティの担い手がいないという声を耳にすることが多くなりました。

一方で、地域の魅力を知っているからこそできる地域発イベントや、自然や風土を活かした商品の開発、誰もが集えるカフェなど、地域づくりと市民活動がうまく掛け合わさり、そこに地域の方と市外の方が集って交流の輪が大きくなっている好事例も生まれています。

こうした地域発の取組を応援する仕組みづくりや、住民自治を担う

組織の強化などによって、25 地区それぞれの魅力を活かした地域づくりを進めてまいります。

また、その中には、大学や民間企業など様々な関係人口と上手に関わることで、新たな活力が生まれている事例もあります。人がひとりで生きていけないように、自治体も単独で成り立つことはできず、特に人口減少社会においては、今後、自治体がフルセットのサービスを提供し続けることが困難になってまいります。そのため、住民自治組織と行政とが一体となって活力ある地域を創っていくことはもとより、自治体同士や、大学・企業などとの連携を図ることで互惠関係を築き、活躍・交流人口を増やしてまいります。

そして、次世代を育む保育・教育も重要です。新型コロナウイルス感染症の収束はまだまだ見通せず、生活の変化が「新しい日常」として定着するポストコロナ社会への対応を迫られています。これは、集団の場である保育・教育の現場でも同じですが、次世代を担う丹波市の子供たちの育ちと学びが、新型コロナウイルス感染症によって足止めされることはあってはなりません。

市内 13 の民営認定こども園という統一的で他市にはない優れた保育環境や、本年度から整備を進めている GIGA スクール環境などを活かし、こども園・学校と地域で、学ぶ楽しさと地域の魅力を感じなが

ら、確かな学力と生きる力が身につく保育・教育、そして、それをこども園・小学校・中学校・高校とつなげることによって、ふるさと丹波市への郷土愛を心に宿し、将来の丹波市を担っていく人づくりを進めてまいります。

私が目指す「子どもたちに帰ってこいよと言えるまちづくり」は、シンプルでありますけれども、究極の目標であり、まさに丹波市の総合力が試されます。

この目標の実現に向け、先に述べました3つの柱はもちろん、市民生活を守る安心安全なまちづくりや、長く元気で暮らせる健康づくり、地域経済を支える小規模事業者の支援や産業振興、丹波市の風土を活かした農林業の振興などに知恵と工夫をもって取り組み、しなやかで足腰の強い丹波市を目指します。

(4) 新型コロナウイルス感染症対策

とは言え、いま市民生活にとって最も重要であるのが、新型コロナウイルス感染症対策であります。春以来、3度目となる全国的な感染流行によって、選挙以降の、この1か月をとってみても、市民生活への影響がさらに拡大しつつあります。

対策には、「恐れすぎず、されど、侮らず」の姿勢で、①感染症の予防、②市民生活の安定、③地域経済の再活性化、④ポストコロナ社会への対応、の4つの方向性で取り組んでまいります。

特に、今は全国的な感染流行期であり、丹波市や周辺地域でも感染者数が増加しています。先ほどの4つの方向性の中でも、基礎自治体である丹波市が特に重視すべきは、市民生活の安定であります。選挙を通じて多くの市民から寄せられた声をもとに、生活影響をできる限り緩和し、市民に寄り添う対策をできるだけ早く皆様にお届けできるよう取り組んでまいります。

(5) ポストコロナ社会に向けて

新型コロナウイルス感染症の影響は、一時的なものにとどまらず、私たちの暮らしに、有形無形の変化を及ぼしつつあります。

ただ、この変化は恐れるべきものではなく、これまでの市政運営を見直す好機であります。長く続いた地方から都市への人の流れは好転のきざしがあり、また、ここ数年の間に起こる更なるデジタル化の波は、私たちの働き方、これまでの行政サービス、市民ニーズに対応する行政組織や庁舎のあり方を見つめ直すきっかけとなるでしょう。

コロナ禍への対応を通じて、先人から受け継いだこのふるさと丹波

市に、新しい価値観を取り入れながら挑戦し、自由で創意に富み、そして人々にあたたかいまちにしていきたいと考えます。

4 結びに

結びに、私の信条について、申しあげたいと思います。

私は、「誠実」という言葉を大切にしています。この言葉は、かつて私が経営していた会社の社是でもありましたが、私に迷いがある時、今は亡き母が、「時彦、お天道様が見とってやで」と言ってくれたことで、「誠実に、ちゃんとすることはしよう」と心に誓って以来、私の座右の銘となっています。

今回の選挙を通じて、本当に多くの市民の声を聞くことができました。市政運営に当たっては、簡単に答えが見つからない、暗中模索の日々もあるとは思いますが、そのようなときこそ、市民の声に耳を傾け、「市の発展、市民の幸福」のため、本当に市民のためになることは何かと、真摯に課題に向き合わなければなりません。そして、行政のプロフェッショナルである各職員と心を合わせ、ひとつひとつ答えを形にしていかなければなりません。

議決機関である市議会と、市長をはじめとする執行機関は、地方自治における車の両輪と言われています。丹波市役所が市民から信頼さ

れ、そして、元気で活力ある丹波市であり続けられるよう、心を燃やし、誠心誠意、取り組んでまいりますので、議員の皆さまの格別のご指導、ご協力を賜りますようお願い申しあげ、私の所信表明とさせていただきます。